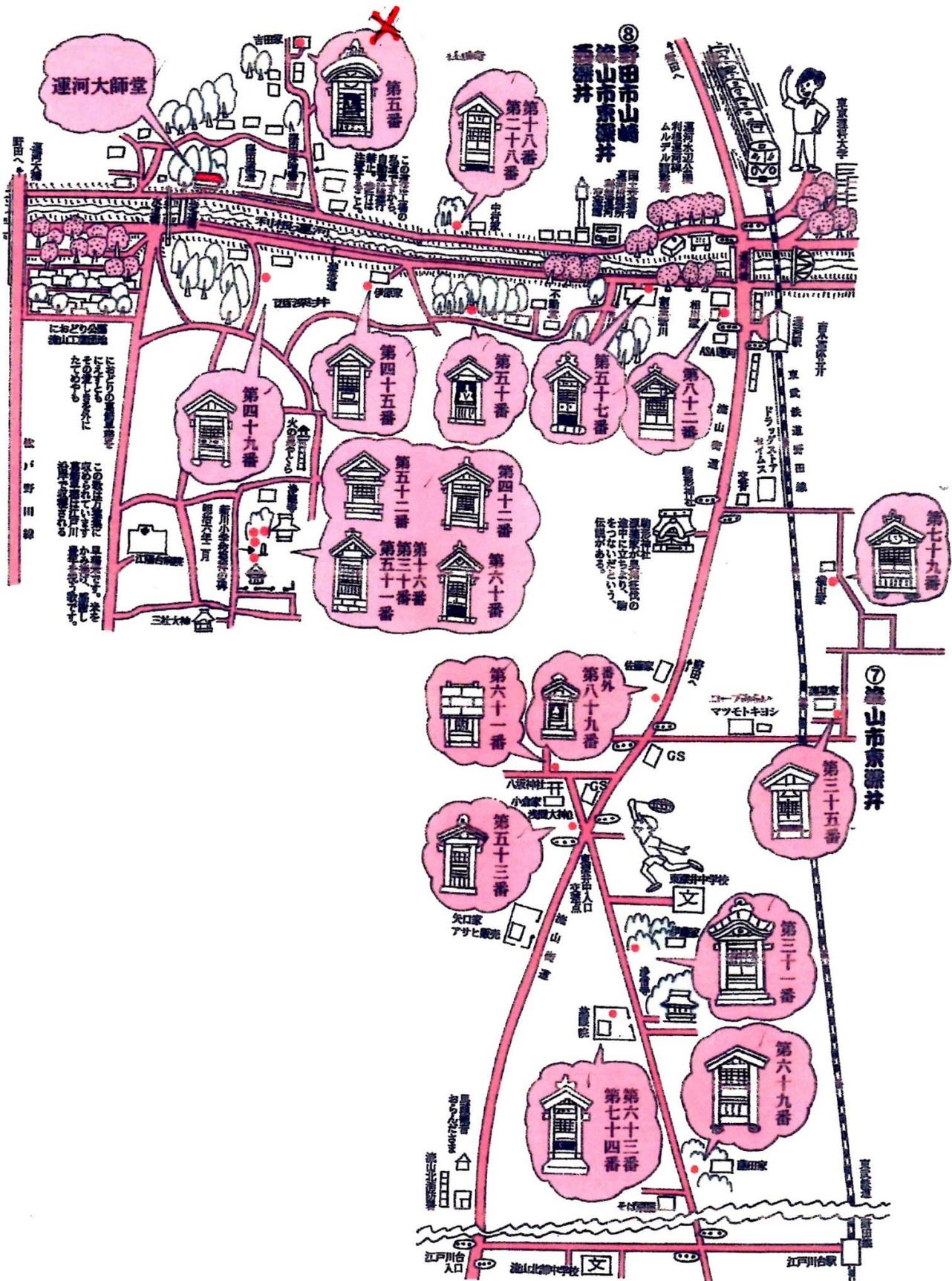


利根運河大師めぐり 「西深井・東深井コース」



利根運河大師めぐり「西深井・東深井コース」

利根運河大師の歴史

利根運河会社の支配人であった森田繁男は、運河橋際に森田果樹園を経営していた。農園は運河の舟運が衰退傾向にある中、利根運河への集客を担っていた。園内ではブドウ、モモ、ナシなど数万本を栽培して、収穫時、船着き場は客で大いに賑わったという。一方、東葛地方では弘法大師の徳を仰ぐべく霊場巡りの希望者が増えつつあった。しかし、当時は鉄道の敷設が全国に拡大したとはいえ四国はあまりに遠く、気軽に遍路することはかなわなかった。そこで、森田は大師の徳をこの地に招く新四国八十八か所の霊場設置を計画した。霊場創建趣旨には「偉大ナル大師ノ弘徳ヲ運河沿岸ニ建立シ併セテ大師堂ヲ運河果樹園へ建設シ以テ弘道ヲ説キ衆生済度スルノ便ニ供セントス」とある。まさに四国八十八か所霊場の設置は、弘法大師の徳を広めるとともに、悩める衆生を救うことを目的としたものであった。いわば近隣町村の大師信仰に応えるものであった。

森田が近隣町村有志への呼びかけに奔走したところ、予定より多くの申し込みがあった。その結果、89番目に申し込みのあった者を断るのに忍び難く、番外として89番札所として建立した。かくて利根運河大師霊場は89か所となった。堂宇は運河沿岸に建立された。また、廃寺同然であった市野谷円東寺の所有権を譲り受け、果樹園の地1反歩に円東寺（大師堂ならびに教会堂）を移し、新たに堂宇を建立した。運河橋を野田側に渡った道路と線路の間の地であった。

大正2年5月21日、果樹園内に建立された大師堂、教会堂で新四国八十八か所利根運河霊場の入魂供養が行われた。供養を先導したのは光明院の椎橋盛範住職であった。大師堂には発願所の一番札所と結願所の八十八番札所が安置された。なお、大師堂境内には大師を安置した12の堂宇が建立された。これは遠方の師守の便を考え、運河駅から至近の大師堂境内に安置されたという。

昭和17年1月、利根運河会社および利根運河はその使命を終えて国に譲渡された。さらに運河堤防が嵩上げされて、運河沿いにあったサクラは伐採された。建ち並んでいた店や八十八か所霊場も撤去された。霊場は師守や寺院に引き取られ散り散りになった。行き場のなかった十数体は運河大師堂境内に移されたが、運河大師堂（円東寺）も荒れ果てていった。森田木三郎は円東寺を市野谷に返還し、昭和46年8月、市野谷に円東寺が再建された。それとともに旧運河大師堂境内に並んでいた大師像は市野谷円東寺に移された。

その後、柏市の有志や東深井中学校社会クラブが、運河大師の所在を調査し名簿を作成した。巡礼も行われた。それらの動きに呼応するように昭和61年、流山、柏、野田の有志により利根運河霊場再建発起人会が結成された。平成2年、利根運河霊場再建実行委員会が設立された。平成8年4月21日、運河河畔に創建された利根運河大師堂で落慶法要が行われた。大師堂には円東寺にあった18体が遷座された。現在、不明であった大師像も再建され21体が安置されている。再建実行委員会は利根運河大師護持会と名称を変え現在に至っている。

利根運河大師の解説（西深井・東深井 A コース）

道順番	札番所	師守	四国霊場	由来
1	79番	横山	讃岐・崇徳天皇寺	東深井、横山要蔵建立。
2	35番	蓮見	土佐・清瀧寺	
3	89番	佐藤	—	申込みが遅れ番外の89番として建立された。もとは現大師堂の近くにあった。
4	50番	相島	伊予・繁多寺	
5	49番	中村	伊予・浄土寺	
6	1番	森田	阿波・霊山寺	創建者森田慶子、繁男の養母。繁男は大師堂に発願札所と結願札所を安置したが、1番札所は養母とした。
“	3番	小名木	阿波・金泉寺	
“	4番	萩原	阿波・大日寺	
“	9番	萩原	阿波・法輪寺	
“	11番	古坂	阿波・藤井寺	流山ましや呉服店の三代目喜左衛門建立。遠方のため大師堂境内に安置された。
“	40番	鈴木	伊予・自在寺	野田の人5名の名がある。
“	41番	秋元	伊予・龍光寺	元流山市長秋元大吉郎の祖父吉郎が建立。当時41歳で41番を選んだ。
“	48番	茂木	伊予・西林寺	キッコーマンの茂木一族、七朗治が48歳のとき建てた。台座は94cm、七朗治の一族と従業員ら22名の名が刻まれている。一族の安寧を願ったのでであろう
“	62番	山田	伊予・宝寿寺	建立者として4名の名がある。
“	68番	北村	讃岐・神恵寺	再建
“	76番	秋元	讃岐・金倉寺	建立者、下花輪秋元兼吉。兼吉の父は四国霊場、西国霊場を巡拝した熱心な大師の信仰者。父の遺志を子の兼吉と藤原直吉が継ぎ運河大師を建立した。
“	76番			なぜ76番が複数あるのか？
“	76番			“
“	78番	山崎	讃岐・道場寺	中野久木山崎喜之助建立。近隣者と思われる10名の名がある。
“	83番	秋元	讃岐・大宝院	加の時計店千疋屋の鈴木啓助が建立。
“	84番	窪田	讃岐・屋島寺	建立者、西深井石井さくら。再建。
“	86番	吉場	讃岐・志度寺	流山吉場利右衛門建立、再建。
“	88番	森田	讃岐・大窪寺	結願所。建立者は森田繁男の妻卷子。繁男は大師堂を発願所と結願所としたが、発願所には母を結願所には妻を配した。
“				製樽組合大師
“	19番	矢口	阿波・立江寺	西深井矢口茂建立。長女が19歳で逝去したので、その霊を慰めるためと言う。茂は現大師前で廻船問屋矢口商店を営んでいた。船着き場は谷口河岸と呼ばれ近くに堂宇があった。現大師堂の敷地は矢口家が提供。
“	23番	護持会	阿波・薬王寺	運河を航行していた回漕組合10人と船仲間組合24人が建立。裏面に34人の名がある。根府川石に大師像が線刻されている。
7	18番	中村	阿波・恩山寺	料亭を営んでいた中村龍太郎が店の前に設置した。
7	28番	鈴木	土佐・大日寺	18番の中村と姻戚の鈴木辨吉が18番と同所に建立。現在同じお堂内にある。

西深井・東深井 B コース

道順番	札番所	師守	四国霊場	由来
1	8 2 番	相川	讃岐・根来寺	
2	5 7 番	石井	伊予・栄福寺	割烹新川の石井広吉 5 7 歳時の建立。新川は明治 2 5 年、窪田酒造の向かい側で営業。昭和 8 年新築の建物は昭和 1 7 年、現在地に曳家された。
3 浄観寺	6 0 番	渡会 浄観寺	伊予・横峰寺	建立者は西深井鈴木俊良
“	1 6 番	田中	阿波・観音寺	中野久木、田中昇建立。流山町長・市長の田中芳夫は同家出身。
“	3 0 番	鈴木	土佐・安楽寺	中野久木、鈴新一郎建立。田中、石井家と親戚。
“	5 1 番	石井	伊予・石手寺	西深井、石井森蔵建立。田中、鈴木家と親戚。上記三体共江戸川口にあった。
“	4 2 番	湯浅	伊予・仏木寺	中野久木、湯浅博之が 4 2 歳のとき厄除け祈願で建立。
“	5 2 番	窪田	伊予・大山寺	料亭新川の隣で雑貨屋を営んでいた窪田忠蔵が 5 2 歳の時建立。
4	6 1 番	荒井	伊予・香園寺	東深井荒井勘五郎が建立。同地で雑貨「道六神商店」を営業し、プライベートブランド「天狗煙草」を製造販売していた。道六神は同所にある。
5	5 3 番	小倉	伊予・円明寺	同所の小倉富五郎が建立。江戸時代、屋敷前の道路は旧日光街道で、大名行列が小倉家で休憩した記録がある。
6	3 1 番	伊藤	土佐・五台山	建立者は伊藤駒吉。旧運河大師境内にあったが円東寺、現運河大師堂と移つり、孫で大工職の八郎が堂宇を建て屋敷内に祀った。6 名の名がある。
7 慈眼院	6 3 番	護持会	伊予・吉祥寺	建立者に山田はつ、竹内西蔵、山澤長吉の名がある。
“	7 4 番	山口	讃岐・甲山寺	浅水すい、山口平四郎、山田口兵エの名がある。
8	6 9 番	藤田	讃岐・観音寺	運河の江戸川口で船大工をしていた藤田幸蔵が家の近く建立。現在は東深井の自宅敷地に安置されている。

* 5 月 2 1 日 (A コース)、6 月 4 日 (B コース) とも参加者は同一人が原則。両日とも 2 グループで巡礼。

* 運河大師の歴史についての解説 A コース 1 組は運河大師で、2 組は三角広場 (駅) で出発前に行く。

B コースの 2 組は前回の質問等で時間差を作る。

* 通り道での簡単解説、時間はあまり使わない。

A 駒形神社、不動堂 (城・学校)、ビリケン (森田繁男、大師との関係)

B 新川、カナルファーム (ムルデル)、浄観寺 (お堂 八幡菩薩堂、十一面観音、学校)、道六神
小倉家 (大名)、慈眼院 (佐和山落城記、文化 9 年の正徳太子のお堂)